

第1回京都三条会商店街ごみ減量ワークショップ 結果概要

第1回の目的 「商店街のごみ減量を進めるうえでの課題を抽出」

実施概要

日時：平成23年9月28日（水）20:00～（約2時間）

場所：三井ガーデンホテル京都三条 2階会議室

- 参加者 ◆運営…4名（パシフィックコンサルタンツ株式会社）
◆商店街…18名（上田理事長をはじめとする各店舗）
◆許可業者…5名（新川耕市京都環境事業協同組合理事長ほか商店街のごみを収集する許可業者）
◆事業系廃棄物対策室

手法

網羅的により多くの具体的な意見を収集し、個々の意見を構造化することで、最終的な方向性を導くことができるよう、3班に分かれたメンバーが、1人ずつフセンに書き込んだことを模造紙上に貼付し、整理していく「KJ法」により課題抽出を行った。

抽出された課題のまとめ

各グループから抽出された意見を整理すると、大きく5つのカテゴリーに分類される。

- 1. 発生抑制**
商品の梱包材が過剰であり、ごみの発生に繋がっている。また、ダンボールでも、小さなものは燃やすごみとして排出している。
- 2. 分別の促進**
紙ごみ等の分別を促進することで、燃やすごみは減量できるが、資源物の分別収集には経費が発生する。商店街のダンボール共同回収や、分別用のごみ箱を設置すると良いのではないか。
- 3. 商店街の意識向上**
各自業者がごみ出しの実態を把握していないことや、事業ごみを家庭ごみとして排出していることがある点が課題として挙げられる。
- 4. 資源回収・共同回収**
ダンボールが無料で回収されている場合が多く、ダンボール以外の古紙等も無料で回収する「事業ごみ資源物の回収」に取り組むと良いのではないか。
- 5. イベントごみ**
商店街のイベントで発生するごみについては、分別が進んでいない。分別ラベルを作成する等、イベントごみの分別に取り組むと良いのではないか。



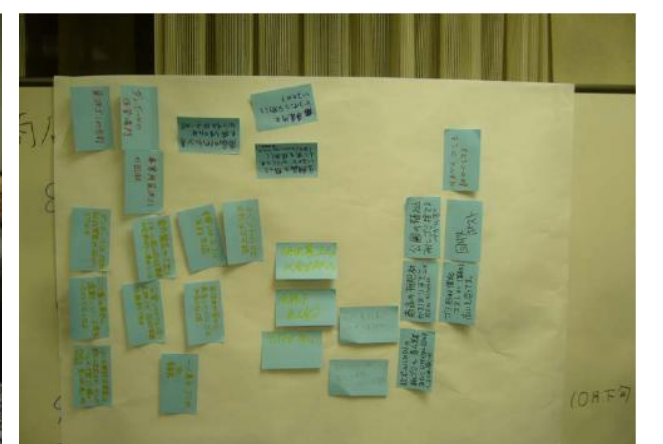
【1班の発表】

- ・ 収集業者から、日常のごみ排出実態を把握していないとの指摘を受けた。
- ・ 家庭ごみと事業ごみの区別が困難である。
- ・ 大きなダンボールはスーパー等の保管場所に持っていき、小さいダンボールはごみとして排出している。



【2班の発表】

- ・ 収集業者から、家庭ごみとして排出している事業者が多いとの指摘を受けた。
- ・ 事業者のごみ分別の意識が低いので、商店街でダンボールの共同回収等に取り組んでみる
- ・ イベント時に大量のごみが発生するが、分別がほとんど出来ていない状況である。



【3班の発表】

- ・ 収集業者から、家庭ごみとして排出している事業者が多いとの指摘を受けた。
- ・ 事業者のごみ分別の意識が低いので、商店街でダンボールの共同回収等に取り組んでみる
- ・ イベント時に大量のごみが発生するが、分別はほとんど出来ていない状況である。